

第241回 令和8年6月2日（火）

「Fourteen Days In May」

「fourteen days in May」で「YouTube」検索すると、全編英語ですがイギリスのBBCのドキュメンタリーが出てきます。日本では「黒人死刑囚～5月の14日間」としてNHKで放送されました。もう30年近く前の映像ですが、いまだに感情を大きく揺さぶられます。

グローバルな視点を持ったリーダーを目指すためにはぜひ一度は見てほしいドキュメンタリーです。26歳のエドワード＝R＝ジョンソンが殺人の罪で逮捕されてミシシッピ刑務所に収監されました。判決は死刑。執行日は5月20日です。このドキュメントは5月7日から20日までの彼の様子を克明に記録した映像です。

ご覧いただければわかりますが、本人は「やっていない」と言っています。家族はもちろんのこと、看守たちまでもが彼がやったとは思えないと口をそろえます。時間だけが刻一刻と迫り、弁護士は再審請求を幾度となく行います。

結末はドキュメンタリーを見てほしいのですが、先進国アメリカでの出来事です。そして現在のアメリカを見ていると、このころからあまり変わっていないような気がします。自由の国と言いながら激しい人種差別が根強く残っているような気がしてなりません。

日本でも冤罪で人生を奪われた袴田巖さんなどのニュースが流れています。彼の人生は大半が刑務所の中で終わりました。もちろん警察も検察も悪意をもって冤罪を作っているわけではないと思いますが、結果として長い時間拘束し、プライドやメンツによって取り返しのつかない時間を奪ってしまったことは事実です。

このドキュメンタリーを見ると不条理さに怒りがわいてきます。それでも自分で何もできないのが悔しくなります。この映像は社会の公民の授業で生徒に見せたことがありますが、元気な男子生徒の涙が止まらず号泣していたことを思い出します。

世界にはまだまだ理不尽なことがたくさんあります。我々の目が普段そこに向いていないことで不条理に蓋をしているのですが、実際には多くの矛盾に満ち溢れています。

世界に出て自分の目でたくさんの人と会い、たくさんものを見てください。矛盾を感じ、憤りを感じてみてください。籠の中で恵まれた暮らしだけを享受しては本質が見えてきません。みなさんのように高い素質と能力を持った人材は魂を揺さぶられるような経験を数多くすることで使命感が生まれてきます。視座を変える努力をしてほしいと思います。